

お客様各位

セイコーソリューションズ株式会社

SmartGS Version 2.2 リリースノート

目次

Version2.2 (2021年2月)	5
1 仕様変更	5
1.1 対応 OS の変更.....	5
1.2 対応ブラウザに Microsoft Edge を追加.....	5
2 機能追加	6
2.1 SSL 暗号化方式の 3DES 無効化機能を追加	6
2.2 指定したバージョン以下の SSL/TLS を無効化する機能を追加.....	6
Version2.1 (2020年3月)	7
1 機能追加	7
1.1 コメント列を表示し、検索機能を拡張（ターゲットリスト画面、ターゲット管理画面）	7
1.2 ターゲット表示の階層全展開／全格納機能を追加（ターゲットリスト画面、ターゲット管理画面） 7	
1.3 ターゲット新規作成画面・ターゲット編集画面にターゲットグループ、アクセスグループへの所属設定を追加	8
1.4 ログ画面に削除機能を追加.....	9
1.5 ターゲット名列を表示し、表示件数を 1000 件まで拡張（ログ画面）	9
2 仕様変更	10
2.1 ターゲット編集画面へのリンクを変更.....	10
2.2 ターゲット削除の方法を変更	10
Version2.0 (2018年9月)	11
1 機能追加	11
1.1 ターゲットリスト画面、ターゲット管理画面の階層化表示機能を追加.....	11
2 仕様変更	12
2.1 ターゲットの IP/Port 表示形式の変更	12
2.2 ターゲット/フォルダの表示順の変更	12
3 不具合修正.....	12
3.1 広告する暗号アルゴリズムの変更	12
Version1.3.3 (2018年2月)	13
1 仕様変更	13
1.1 対応 OS に RHEL 7 系/CentOS 7 系を追加.....	13
1.2 英語版のサポート	13
1.3 ライセンス未登録時の各種登録数/接続数を変更.....	13
1.4 ライセンス未登録時の使用期限を設定.....	13

1.5	脆弱性への対処	14
1.6	SmartGS の出力するログメッセージを抑制	14
Version1.3.2 (2017年7月)		15
1	仕様変更	15
1.1	対応ブラウザに Internet Explorer を追加	15
Version1.3.1 (2017年1月)		16
1	仕様変更	16
1.1	SSL サーバ証明書の署名アルゴリズムを変更	16
Version1.3 (2015年5月)		17
1	機能追加	17
1.1	SSH 公開鍵認証(ターゲットセッション)の追加	17
2	仕様変更	18
2.1	HTTPS 接続時の SSLv3 の廃止(POODLE 脆弱性の対応)	18
3	不具合修正	18
3.1	ユーザ削除および変更時の不具合を対処	18
Version1.2.1 (2015年1月)		19
1	不具合修正	19
1.1	Web CGI 脆弱性の対処	19
Version1.2 (2014年10月)		20
1	機能追加	20
1.1	ターゲットセッションログのタイムスタンプ対応	20
1.2	ターゲットセッションログファイル名の変更機能	20
1.3	CLI 機能の強化	21
2	仕様変更	22
2.1	社名変更	22
2.2	ユーザ名長の拡充	22
2.3	ターゲット名のコメント拡充	22
2.4	ターゲットセッションログのファイルサイズが上限に達した場合の動作を変更	22
3	不具合修正	23
3.1	HTTPS サーバが異常終了する不具合を対処	23
3.2	一般ユーザでターゲットセッションログの検索ができない不具合を対処	23
3.3	一般ユーザが管理者ページにアクセスできてしまう不具合を対処	23
3.4	ターゲットへのアクセス状態が”接続中”とならない不具合の対処	23

Version1.1 (2014 年 6 月)	24
1 機能追加	24
1.1 Firefox ブラウザに対応	24
1.2 ライセンスコードの表示機能を追加	24
1.3 ターミナルウィンドウの日本語入力対応	24
2 仕様変更	25
2.1 インストールディレクトリの変更	25
2.2 ターゲットに通知される TERM 環境変数の変更.....	25
3 不具合修正.....	25
3.1 メモリリークする不具合を対処.....	25

Version2.2 (2021 年 2 月)

1 仕様変更

Version 2.2 では以下の仕様を変更しました。

1.1 対応 OS の変更

SmartGS の動作環境 OS に RHEL 8 系/CentOS 8 系を追加しました。RHEL 6 系 <32bit/64bit>/CentOS 6 系 <32bit/64bit>は非サポートとなります。

SmartGS のバージョンごとの対応 OS は下記の通りです。

SmartGS バージョン	動作環境 OS
v1.0~v1.3.2	RHEL 6 系 <32bit/64bit>/CentOS 6 系 <32bit/64bit>
v1.3.3~v2.1	RHEL 6 系 <32bit/64bit>/CentOS 6 系 <32bit/64bit> RHEL 7 系 /CentOS 7 系
v2.2	RHEL 7 系 /CentOS 7 系 RHEL 8 系 /CentOS 8 系

また、対応 OS の変更に伴い、管理コマンドを init から systemd に変更しました。
(例: /etc/init.d/smartgs start から systemctl start smartgs への変更、等)
実行例などの詳細は取扱説明書の 2 章を参照して下さい。

1.2 対応ブラウザに Microsoft Edge を追加

SmartGS へ HTTPS アクセスする際に利用できる対応ブラウザは、Internet Explorer、Google Chrome、Mozilla Firefox のみでしたが、Microsoft Edge を追加しました。

2 機能追加

Version 2.2 では以下の機能を追加しました。

2.1 SSL 暗号化方式の 3DES 無効化機能を追加

SmartGS へ HTTPS でアクセスする際の SSL 暗号化方式について、3DES を無効化できるように機能拡張しました。

`/opt/smartgs/etc/smartgs.conf` にパラメータを書き込むことで、3DES の有効/無効を変更することができます。デフォルトでは無効が指定されています。

2.2 指定したバージョン以下の SSL/TLS を無効化する機能を追加

SmartGS へ HTTPS でアクセスする際の SSL/TLS について、指定したバージョン以下の SSL/TLS を無効化できるように機能拡張しました。

`/opt/smartgs/etc/smartgs.conf` にパラメータを書き込むことで、無効化する SSL/TLS のバージョンを変更することができます。デフォルトでは `none` が指定されており、何れのバージョンも無効化されていません。

Version2.1 (2020年3月)

1 機能追加

Version 2.1 では以下の機能を追加しました。

1.1 コメント列を表示し、検索機能を拡張（ターゲットリスト画面、ターゲット管理画面）

ターゲットリスト画面およびターゲット管理画面にコメント列を表示するよう拡張しました。
また両画面の検索機能において、ターゲット名やレイヤー名、IP アドレスに加え、コメントの内容からも検索が可能になりました。

`/opt/smartgs/etc/smartgs.conf` にパラメータを書き込むことにより、コメントの内容を検索対象とするか、非対象とするかを設定することが可能です。デフォルトでは非対象になっています。

1.2 ターゲット表示の階層全展開／全格納機能を追加（ターゲットリスト画面、ターゲット管理画面）

ターゲットリスト画面およびターゲット管理画面において、階層の全展開表示（全階層および全ターゲットを表示）／全格納表示（レイヤー1のみ表示）が選択できるようになりました。
画面右上の「+」「-」ボタンで表示を都度切り替えることが可能です。
なおレイヤー未設定のターゲットは常に表示されます。

`/opt/smartgs/etc/smartgs.conf` にパラメータを書き込むことで、表示方法をどちらかに指定することができます。デフォルトでは全展開が指定されています。

ターゲットリスト

ターゲット選択

検索:

ターゲット名	IP:Port	コメント	
▼ Chiba			
▼ Makuhari			
▼ SeikoSolutions			
▼ SmartCS			
Edge_Switch1_console	172.31.100.1:8101	2020年1月20日から停止中	接続
Netwiser_console	172.31.100.1:8102	2020年1月6日から試験中	接続
TimeServer_console	172.31.100.1:8103		接続

1.3 ターゲット新規作成画面・ターゲット編集画面にターゲットグループ、アクセスグループへの所属設定を追加

ターゲット新規作成時にターゲットグループ、アクセスグループへ所属させることが可能になりました。また、作成後もターゲット編集画面で所属を変更させることが可能になりました。

登録済みのターゲットグループやアクセスグループの中から選択してください。

ターゲット管理 編集

ターゲット情報

ターゲット名	Edge_Switch1_console
IP	172.31.100.1
Port	8101
プロトコル	telnet ▼
コメント	2020年1月20日から停止中
レイヤー1	Chiba
レイヤー2	Makuhari
レイヤー3	SeikoSolutions
レイヤー4	SmartCS

ターゲットセッション設定

最大セッション数
5 ▼

1セッションの接続数

RW	2 ▼
RO	3 ▼

ターゲットグループ設定

▼ ターゲットグループ

選択済み:1	全削除		全選択
Server	-	Switch	+

アクセスグループ設定

▼ アクセスグループ

選択済み:1	全削除		全選択
NetworkTeam	-	ServerTeam	+

1.4 ログ画面に削除機能を追加

ログ画面にて、ログをチェックボックスで複数選択して削除することが可能になりました。
削除は Admin 権限でのみ実行できます。
接続中のログは削除できません。

1.5 ターゲット名列を表示し、表示件数を 1000 件まで拡張（ログ画面）

ログ画面にて、各ログの接続先ターゲット名を表示するよう拡張しました。
上部の矢印ボタンでターゲット名をソートすることも可能です。

また、ログの表示件数に 500 件と 1000 件を追加しました。

セッションログ

検索結果：115件

表示件数 20 ▼

削除

	開始時刻	終了時刻	ユーザ名	ターゲット名	詳細	削除
<input type="checkbox"/>	2020/02/27 14:09:34	2020/02/27 14:09:39	admin	NS-2250-48_1_SSH	📄	🗑️
<input type="checkbox"/>	2020/02/27 14:08:56	2020/02/27 14:08:58	admin	TimeServer_console	📄	🗑️
<input type="checkbox"/>	2020/02/27 14:08:45	2020/02/27 14:08:48	admin	NS-2250-48_2_tel	📄	🗑️
<input type="checkbox"/>	2020/02/27 14:08:03	2020/02/27 14:08:06	admin	Edge_Switch1_console	📄	🗑️
<input type="checkbox"/>	2020/02/27 14:07:52	2020/02/27 14:07:55	admin	Netwiser_console	📄	🗑️
<input type="checkbox"/>	2020/02/27 14:07:46	2020/02/27 14:07:49	admin	TimeServer_console	📄	🗑️
<input type="checkbox"/>	2020/02/27 14:07:38	2020/02/27 14:07:38	admin	Netwiser_console	📄	🗑️
<input type="checkbox"/>	2020/02/27 14:07:32	2020/02/27 14:07:35	admin	TimeServer_console	📄	🗑️

2 仕様変更

Version 2.1 では以下の仕様を変更しました。

2.1 ターゲット編集画面へのリンクを変更

ターゲット管理画面の「編集」ボタンを廃止し、ターゲット名をリンク化しました。

ターゲット名のリンクをクリックするとターゲット編集画面へ遷移します。

2.2 ターゲット削除の方法を変更

複数のターゲットをまとめて削除できるよう変更しました。

ターゲット管理画面のターゲット毎に表示していた削除ボタンを廃止しました。

ターゲット毎に削除ボックスを追加し、表の左上に削除ボタンを追加しました。

ターゲットを削除する場合はチェックボックスにチェックを入れ、削除ボタンを押下します。

ターゲット管理

ターゲット管理

検索:

ターゲット新規作成

登録数: 7 / 登録可能数: 2000

削除 + -

<input type="checkbox"/>	ターゲット名	IP:Port	コメント
	▼ Chiba		
	▼ Makuhari		
	▼ SeikoSolutions		
	▼ SmartCS		
<input type="checkbox"/>	Edge_Switch1_console	172.31.100.1:8101	2020年1月20日から停止中
<input type="checkbox"/>	Netwiser_console	172.31.100.1:8102	2020年1月6日から試験中
<input type="checkbox"/>	TimeServer_console	172.31.100.1:8103	

Version2.0 (2018年9月)

1 機能追加

Version 2.0 では以下の機能を追加しました。

1.1 ターゲットリスト画面、ターゲット管理画面の階層化表示機能を追加

ターゲットごとに「設置エリア」、「設置場所」等のカテゴリ分けができるようにレイヤー名を、最大4つまで設定することができるようになりました。

レイヤー名の設定はターゲット管理画面、またはCSVファイルのインポートをご利用下さい。

設定可能な文字種は半角英数字と記号(ハイフン/アンダーバー/アットマーク/ドット)、最大文字数は32文字です。

ターゲットリスト内の検索機能を使用することで、検索文字列を含むフォルダ/ターゲットに関連する親フォルダ/子フォルダ/ターゲットのみを表示することが可能となります。

なお、CLIアクセスではdetail コマンドの仕様のみ変更し、ターゲットのレイヤー名を表示するようにしました。

ターゲットリスト

ターゲット選択

検索:

ターゲット名	IP:Port	
▼ Chiba		
▼ Makuhari		
▼ SeikoSolutions		
▼ SmartCS		
Edge_Switch1_console	172.31.100.1:8101	<input type="button" value="接続"/>
Netwiser_console	172.31.100.1:8102	<input type="button" value="接続"/>
TimeServer_console	172.31.100.1:8103	<input type="button" value="接続"/>

2 仕様変更

Version 2.0 では以下の仕様を変更しました。

2.1 ターゲットの IP/Port 表示形式の変更

階層化表示機能の追加に伴い、ターゲットリスト画面およびターゲット管理画面の表示形式を変更しました。

v1.3.3 では IP、Port が個別の列で表示されておりましたが、v2.0 からは 2 つの列を統合し「IP:Port」の形式で 1 列に表示します。

2.2 ターゲット/フォルダの表示順の変更

ターゲットリスト画面内のターゲット/フォルダの表示順を、ターゲット管理画面/ユーザ管理画面と同様のソート順となるように変更しました。

3 不具合修正

Version 2.0 では以下の不具合を修正しました。

3.1 広告する暗号アルゴリズムの変更

SmartGS で未対応である暗号アルゴリズムを広告しないように修正することで、下記の暗号アルゴリズムを優先して使用するクライアント端末ソフトとの間で SSH 接続できない不具合に対処しました。

- aes128-gcm@openssh.com
- aes256-gcm@openssh.com

Version1.3.3 (2018年2月)

1 仕様変更

Version 1.3.3 では以下の仕様を追加しました。

1.1 対応 OS に RHEL 7 系/CentOS 7 系を追加

SmartGS の動作環境 OS に RHEL 7 系/CentOS 7 系を追加しました。

1.2 英語版のサポート

v1.3.3 では、日本語版のパッケージに英語版のパッケージを追加しました。

言語の選択はインストール時に実施します。その後のバージョンアップはインストール時と同一の言語でのみ実施可能で、言語を変更する際は一度アンインストールをしてから、再度インストールを実施します。

1.3 ライセンス未登録時の各種登録数/接続数を変更

ライセンス未登録時の各種登録数/接続数を、200 ターゲットのライセンス登録時と同様に変更しました。

1.4 ライセンス未登録時の使用期限を設定

v1.3.3 からはライセンス未登録の場合、起動から 120 日経過後に使用できる機能が制限されます。

制限される機能は Telnet/SSH によるターゲットへの新規接続です。

SmartGS をインストールしたサーバで「sgsadmin license show」コマンドを実行することで、使用期限の日時を確認することができます。

なお、使用期限経過後であっても、下記の機能は継続してご利用いただくことができます。

- GUI から SmartGS の設定変更
- ログの検索/参照/ダウンロード
- CLI から設定情報のエクスポート

1.5 脆弱性への対処

下記の脆弱性に対処し、GUI アクセス時のセキュリティを強化しました。

- SmartGS の Web(HTTPS)接続に用いる暗号スイートのうち、RC4 を無効化
- HTTP ヘッダに関する下記の脆弱性に対処
 - クリックジャッキング攻撃を防止する為、X-Frame-Options ヘッダを追加
 - XSS 防止機能を有効化する為、X-XSS-Protection ヘッダを追加
 - ブラウザ内でキャッシュを保持しないように、Cache-Control ヘッダを追加
 - HTTP レスポンスを Sniffing されないように、X-Content-Type-Options ヘッダを追加
- GUI の各画面についてパスワード入力のオートコンプリート機能を無効化

1.6 SmartGS の出力するログメッセージを抑止

SYSLOG(messages 等)に出力している下記メッセージの出力を抑止するよう修正しました。

「etc/moduli does not exist, using fixed modulus」

Version1.3.2 (2017年7月)

1 仕様変更

Version 1.3.2 では以下の仕様を追加しました。

1.1 対応ブラウザに Internet Explorer を追加

SmartGS へ HTTPS アクセスする際に利用できる対応ブラウザは、Google Chrome と Mozilla Firefox のみでしたが、Internet Explorer を追加しました。

なお、対応している Internet Explorer のバージョンは 11 のみです。

Version1.3.1 (2017年1月)

1 仕様変更

Version 1.3.1 では以下の仕様を変更しました。

1.1 SSL サーバ証明書の署名アルゴリズムを変更

SSL サーバ証明書の署名アルゴリズムを SHA-1 から SHA-2 に変更しました。

この証明書はクライアント PC から SmartGS に HTTPS でアクセスした時に使用されます。

Version1.3 (2015 年 5 月)

1 機能追加

Version 1.3 では以下の機能を追加しました。

1.1 SSH 公開鍵認証(ターゲットセッション)の追加

ターゲットの SSH サーバ接続時に従来のパスワード認証に加えて、公開鍵認証を選択できるようにしました。

SSH 鍵の作成や登録、known_hosts の編集ページはユーザ管理メニューに追加しています。



本ソフトウェアがサポートしている SSH 鍵は下記の仕様です。

機能	内容	詳細
SSH 鍵の作成 (公開鍵/秘密鍵)	登録可能数	ユーザ毎に最大 10 個
	ラベル名	最大 16 文字
	鍵の種類	RSA 768,1024,2048,4096bit DSA 1024bit
	パスフレーズ	文字長は 0(未設定)もしくは 5~32 文字
	コメント	鍵作成時に自動的に生成されます。
SSH 鍵のインポート (秘密鍵)	ファイル フォーマット	PEM 形式

2 仕様変更

Version 1.3 では以下の仕様を変更しました。

2.1 HTTPS 接続時の SSLv3 の廃止(POODLE 脆弱性の対応)

CVE-2014-3566 (JVN#98283300) で SSLv3 プロトコルの脆弱性が発見されました。

SmartGS の Web(HTTPS) 接続に用いる SSL バージョンから SSLv3 を廃止し、TLSv1 以上を用いるように変更しました。

3 不具合修正

Version 1.3 では以下の不具合を修正しました。

3.1 ユーザ削除および変更時の不具合を対処

- ・ ユーザ削除時に不要な情報が残ってしまう問題を修正しました。
- ・ SmartGS にユーザがログインしている状態で、そのユーザに対するユーザ名の変更・削除を行った場合、ユーザの画面遷移が異常になる不具合を修正しました。

Version1.2.1 (2015年1月)

1 不具合修正

Version 1.2.1 では以下の不具合を修正しました。

1.1 Web CGI 脆弱性の対処

SmartGS の動作に影響を及ぼす可能性のある Web CGI 脆弱性を対処しました。

Version1.2 (2014年10月)

1 機能追加

Version 1.2 では以下の機能を追加しました。

1.1 ターゲットセッションログのタイムスタンプ対応

ターゲットセッションログにタイムスタンプを刻印する機能を追加しました。

この機能追加により、/opt/smartgs/etc/smartgs.conf に下表のパラメータを追加しています。

パラメータ	値	内容
sessionlog_timestamp_mode	on / off(default)	タイムスタンプ有無の設定
sessionlog_timestamp_unit	sec(default) / msec	タイムスタンプ単位の設定

タイムスタンプはターゲットセッションログ各行の先頭に下表のフォーマットで刻印されます。

sessionlog_timestamp_unit	フォーマット
sec(default)	[YYYY-MM-DD HH:MM:SS]
msec	[YYYY-MM-DD HH:MM:SS.SSS]

1.2 ターゲットセッションログファイル名の変更機能

ターゲットセッションログファイル名を変更できる機能を追加しました。

この機能追加により、/opt/smartgs/etc/smartgs.conf に下表のパラメータを追加しています。

パラメータ	内容
sessionlog_file_name	<p>ターゲットセッションログのファイル名を設定します。</p> <p>設定可能なファイル名長は128文字です。 使用可能な文字列は下記変数と半角英数字、/(スラッシュ)、_(アンダーバー)、-(ハイフン)です。</p> <p>\$TARGET ターゲット名</p> <p>\$AG アクセスグループ名</p> <p>\$DATE 日付</p> <p>\$TIME 時間</p> <p>\$SSID セッションID</p> <p>\$USER ユーザ名</p> <p>このパラメータのデフォルト値は\$TARGET/\$AG/\$DATE/\$TIME_\$SSIDです。 拡張子は.log固定です。</p>

1.3 CLI 機能の強化

ターゲットへ簡単にアクセスできるように、CLI の Tab 補完やコマンド履歴、ショートカットキーに対応しました。

(1) CLI 補完 (Tab キーによる補完)

CLI プロンプトで Tab を押下することにより、コマンドやターゲット名、アクセスグループなどを補完することができます。

(2) CLI コマンド履歴

十字キーの上下(↑↓)でコマンド履歴(履歴)を表示できます。

コマンド履歴の保存件数は最大 20 件です。

機能	キー	動作
コマンド履歴(履歴)	↑	1 回前に実行されたコマンドを表示
	↓	1 回後に実行されたコマンドを表示

(3) CLI ショートカットキー

下記のショートカットキーに対応しています。

機能	キー	動作
カーソル移動	Ctrl-b	カーソルを左に 1 文字移動
	Ctrl-f	カーソルを右に 1 文字移動
	Ctrl-a	カーソルを行頭に移動
	Ctrl-e	カーソルを行末に移動
削除	Ctrl-h	カーソルの左の文字を削除
	Ctrl-d	カーソル位置の文字を削除(入力文字がある場合)
	Ctrl-k	カーソル位置から行末までの文字を削除
コマンド履歴(履歴)	Ctrl-p	1 回前に実行されたコマンドを表示
	Ctrl-n	1 回後に実行されたコマンドを表示
その他	Ctrl-l	表示をクリアし、現在の入力行を一番上に表示
	Ctrl-d	ログアウト(入力文字がない場合)
	Ctrl-s	画面の更新を停止
	Ctrl-q	画面の更新を再開
	Ctrl-m	改行
	Ctrl-j	改行

2 仕様変更

Version 1.2 では以下の仕様を変更しました。

2.1 社名変更

SmartGS の各種 Web 画面に表示される会社ロゴやコピーライトの会社情報を、SII ネットワークシステムズ株式会社からセイコーソリューションズ株式会社に変更しました。

2.2 ユーザ名長の拡充

登録可能なユーザ名長を 16 文字から 32 文字に拡張しました。

2.3 ターゲット名のコメント拡充

ターゲットのコメント欄に全角文字 (UTF-8) を登録できるようにしました。

2.4 ターゲットセッションログのファイルサイズが上限に達した場合の動作を変更

SmartGS には 1 セッションあたりのターゲットセッションログのファイルサイズは 2GB 迄という制限事項があります。

ファイルサイズの上限に達すると、そのセッションが自動的に切断されるように変更しました。

3 不具合修正

Version 1.2 では以下の不具合を修正しました。

3.1 HTTPS サーバが異常終了する不具合を対処

SmartGS をインストールしたサーバに搭載している物理メモリ以上のターゲットセッションログをダウンロードすると、SmartGS の HTTP サーバが終了する不具合を対処しました。

3.2 一般ユーザでターゲットセッションログの検索ができない不具合を対処

ユーザ名とアクセスグループ名に”.”が含まれている場合、一般ユーザで検索を行うと、検索結果が表示されない不具合を対処しました。

3.3 一般ユーザが管理者ページにアクセスできてしまう不具合を対処

一般ユーザが本来アクセスできない管理者ページにアクセスできてしまう不具合を対処しました。

3.4 ターゲットへのアクセス状態が”接続中”とならない不具合の対処

SmartGS をインストールしたサーバの時刻を JST 以外に変更すると、接続中のセッションであるにもかかわらず、不適切な終了時刻が表示されたり、検索結果が表示されない不具合を対処しました。

Version1.1 (2014年6月)

1 機能追加

Version 1.1 では以下の機能を追加しました。

1.1 Firefox ブラウザに対応

対応ブラウザに Mozilla Firefox を追加しました。

Version1.1 は下記のブラウザに対応しております。

対応ブラウザ	Google Chrome バージョン 27以降 (HTML5対応) Mozilla Firefox バージョン 29以降 (HTML5対応)
--------	--

1.2 ライセンスコードの表示機能を追加

ブラウザのメンテナンスメニューや sgsadmin コマンドでライセンスコードを表示するように拡張しました。ライセンスコードは保守契約で使用されるコードです。保守契約加入時に必要となります。

```
# /opt/smartgs/bin/sgsadmin license show
*****
SMARTGS LICENSE INFORMATION
*****
License File : Registered
Serial Number : 43123456
License Code : XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
#
```



1.3 ターミナルウィンドウの日本語入力対応

ブラウザから起動されるターミナルウィンドウから日本語入力できるように機能拡張しました。

2 仕様変更

Version 1.1 では以下の仕様を変更しました。

2.1 インストールディレクトリの変更

インストールディレクトリを/opt/siins/smartgs から/opt/smartgs に変更しました。

上記変更に伴い、Version1.0 から version1.1 にはバージョンアップできません。

Version1.0 を利用されている場合は、下記の手順で Version1.1 をインストールしてください。

詳細は弊社もしくは販売代理店へお問い合わせください。

- 1, Version1.0 の設定を CSV ファイルにエクスポート
- 2, Version1.0 をアンインストール
- 3, Version1.1 をインストール
- 4, SmartGS をメンテナンスモードで起動
- 5, ライセンスを登録
- 6, Version1.1 を通常モードで起動
- 7, 設定をインポート
- 8, SmartGS の動作を確認

2.2 ターゲットに通知される TERM 環境変数の変更

ターゲットに通知される TERM 環境変数は、/etc/init.d/smartgs を起動するシェルに依存し、xterm や linux などの不定な値がターゲットに通知されていました。

Version1.1 では、ブラウザから起動されるターミナルウィンドウの TERM 環境変数は xterm-256color に固定し、Teraterm などのターミナルエミュレータソフトで SSH 接続して利用される場合は、ターミナルソフトに設定されている TERM 環境変数を通知するように変更しました。

3 不具合修正

Version 1.1 では以下の不具合を修正しました。

3.1 メモリリークする不具合を対処

ターゲットに新規接続する度に僅かにメモリリークする不具合を対処しました。

以上